

令和6年度 小・中学校における環境教育の取組み

理科・社会科・総合的な学習の時間（第5学年）

テーマ【高安の自然を守ろう】

八尾市立高安小中学校 前期課程



《学習のねらい》

- ・校内のビオトープ内の池に生息するメダカの飼育を通して、受精卵の様子を観察し、発生の条件や過程をとらえられるようにする。
- ・ビオトープ内の池で保護しているバラタナゴの発生や、校区内にある自分たちが米作りをした田んぼにすむ小動物について興味を持ち、身近な自然を大切にしたい気持ちをはぐくむ。
- ・地域の環境について知り、人間の活動が環境に与えている影響を考え、地域の自然を保護するために、自分ができることについて考える。

《学習の流れ》

実施時期 5月～11月

- ①メダカを育て、発生や成長について学ぶ。
- ②きんたい廃校水族館（旧高安中学校）の館長による出前授業を受け、ニッポンバラタナゴの産卵について知る。
- ③きんたい廃校水族館を見学し、私たちがくらしている高安の地域にはさまざまな生き物がいるということを知る。
- ④田植えの準備をする。
- ⑤米作りについての調べ学習をし、田植えをする。
- ⑥イネの観察と共に、田んぼにすむ小動物について観察をし、地域の自然について考える。
- ⑦稲刈りをする。
- ⑧これまでの学習を振り返り、高安の自然を守るために、自分ができることを考える。環境保全、絶滅危惧種保護問題などにもふれる。



《指導のポイント》

- ・田んぼの生き物を観察しやすいように、教室に田んぼの水や顕微鏡などを置き、興味を持った児童が自由に観察できるようにする。
- ・さまざまな教科の学びと関連させて学習を進めるようにする。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

きんたい廃校水族館（八尾市教育センターの敷地内） 館長 大橋一輝先生（ゲストティーチャー）、地域の方（田植え、稲刈り等）

《成果》

- ・専門家のお話を聞いたり、実際に生き物に触れる活動を通して、自然への探究心が高まり、ビオトープに児童が行き、「魚が死んでいる」「ごみが浮かんでいる」等、職員室に伝えにきたり、自分で調べ学習を進めるなど、自主的に活動するようになった。また、中央玄関にある大型水槽の餌やり当番を毎年5年生が担当しているが、学習以降、魚の様子を観察しながら、エサの量を調節するなど、意欲的に取り組むようになった。高安の自然を守るために、自分の行動をより真剣に考えることができた。
- ・地域だけでなく、地球環境問題にも関心を持ち、自ら調べたり、私たちが抱えている課題について考えている様子が見られた。